

メキシコ*

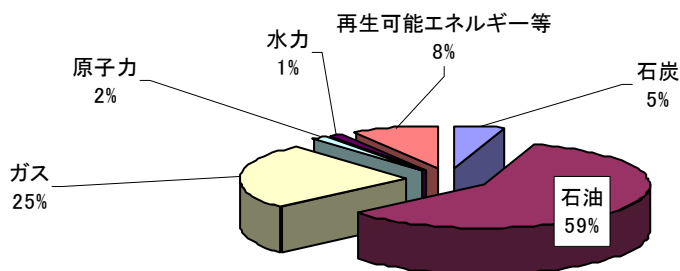
国際動向・戦略分析グループ 主任研究員 小森 吾一

1. サマリー

1. エネルギー事情

メキシコは、石油を中心に豊富な資源を有する国家で、石油は世界第 5 位の生産量を誇っている (2006 年)。生産量の半分以上を輸出しており、米国に対する主要供給国のひとつである。一方、天然ガス生産は豊富な資源を有するにもかかわらず、投資不足から生産が伸び悩んでおり、純輸入国となっている。

- (1) 一次エネルギー供給量 176.53 石油換算百万トン (2005 年、日本の 0.3 倍)
- (2) 一人当たりの一次エネルギー供給量 1.6765 石油換算トン (2005 年、日本の 0.4 倍)
- (3) エネルギー自給率 147%
- (4) エネルギー起源 CO2 排出量 389.42 二酸化炭素百万トン (2005 年)
- (5) 一人当たりエネルギー起源 CO2 排出量 3.70 二酸化炭素トン/人 (2005 年)
- (6) エネルギー別可採年数：石油 9.6 年、天然ガス 8.9 年、石炭 109 年 (2006 年末)
- (7) 原油生産量 1 億 8,310 万トン/年、天然ガス生産量 434 億立米/年 (2006 年)



(出所) IEA 統計 2007

2. エネルギー政策のポイント

(1) エネルギー政策担当機関

エネルギー省 (エネルギー大臣はジョルジーナ・ケッセル・マルティネス氏) で、炭化水素 (石油・ガス)、電力、政策および技術発展と管理の 4 部門から構成される。

(2) 基本政策

メキシコは現在、エネルギー純輸出国であり、自給率は 100% 以上である。今後の石油・天然ガス生産の拡大を目指しているが、石油産業は憲法に基づき国有化されており、外資導入

*平成 19 年度に経済産業省資源エネルギー庁より受託して実施した受託研究の一部である。この度、経済産業省の許可を得て公表できることとなった。経済産業省関係者のご理解・ご協力に謝意を表すものである。

は非随伴天然ガス開発に限定されている。今後、原子力発電にも注力する方針である。

(3) 最近の動向

2006 年 12 月に就任したカルデロン新大統領は、最優先課題として、①治安対策、②経済の強化と雇用の促進、③貧困の撲滅を掲げている。また、フォックス前大統領と同様、自由競争を信奉しており、国営石油会社 PEMEX を含む大企業の独占打破を公約に掲げている。

3. 日本とエネルギー分野における関係

(1) 日本とメキシコとの間に、現在、エネルギーの貿易関係はない。

(1) (2) 日本からメキシコへの投資は、2003 年実施の非随伴天然ガス鉱区における MCS 契約の入札第 1 ラウンドで帝国石油が Cuervito、Fronterizo 鉱区を Petrobras 等とともに落札した。三井物産が 25% 出資している Altamira LNG 受入基地は 2006 年 10 月に完成、操業開始した。さらに中部電力と三井物産がカルパイン社(米国)とともに、メキシコの火力 IPP に参画している(2004 年着工、2006 年に追加出資)。一方環境関連では、住友商事による中南米諸国を対象とする省エネルギー、代替エネルギー事業向け投資ファンドへの出資等が挙げられる。

2. 主要エネルギー指標

(2005 年)

(1) 一次エネルギー供給量	176.53	石油換算百万トン
(2) 一人当たりの一次エネルギー供給	1.6765	石油換算トン/人
(3) GDP 当たりの一次エネルギー供給	0.2775	石油換算トン/千ドル
(4) エネルギー自給率	147	%
(5) エネルギー起源 CO2 排出量	389.42	二酸化炭素百万トン
(6) 一人当たりエネルギー起源 CO2 排出量	3.70	二酸化炭素トン/人
(7) エネルギー源別構成率	石炭	4.9 %
	石油	58.8 %
	ガス	25.0 %
	原子力	1.6 %
	水力	1.4 %
	再生可能エネルギー等	8.3 %
(8) エネルギーの輸入依存度	—	%
(9) 石油の輸入依存度	—	%
(10) 輸入原油の中東依存度	0.0	%
(11) 原油輸入先	第 1 位	米国
	第 2 位	—
	第 3 位	—

出所：(1)～(4)および(7)～(9)は IEA 「Energy Balances of OECD Countries」 2004-2005 (2007 Edition)

(5)～(6)は IEA 「CO2 Emissions from Fuel Combustion」 1971-2005 (2007 Edition)

(10)～(11)は Blackwell 「World Oil Trade : An Annual Analysis and Statistical Review of International Oil Movements」 September, 2007.